

第10回(2019年度)助成研究成果表彰 受賞者

助成研究成果表彰は、優れた成果をあげた助成研究者に与えられるもので、本年度も12名の応募があり、技術委員会による厳正な審査により各賞の候補者を選考し、5月28日開催の第38回通常理事会において、3名の方の受賞が決定いたしました。

なお、表彰式・受賞記念講演会は、別途開催する予定です。

1. 理事長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩を通して鉄鋼業や社会に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	鳥羽 陽	所属	金沢大学医薬保健研究域薬学系・准教授
助成研究期間	2年間 : 2014年11月～2016年10月		
研究テーマ	PM2.5に含有される有害多環芳香族炭化水素類に関する大気微小環境の評価		
研究成果	氏は、人間の健康に有害性の高い多環芳香族炭化水素のキノン誘導体(PAHQ)の高感度分析法を開発し、これを駆使して道路環境や家庭でのPAHQの測定を進めた。微小環境での発がんリスクを評価した研究は先駆的であり、今後の環境計測を推進させた学術的にも政策的にも貢献の大きい研究成果である。		

2. 技術委員長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩に、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた若手助成研究者に贈られる。		
氏名	酒井 雄也	所属	東京大学生産技術研究所・講師
助成研究期間	1年間 : 2015年11月～2016年10月		
研究テーマ	鉄鋼スラグを混合したセメント硬化体の高圧環境下でのパフォーマンス		
研究成果	氏は、高い拘束圧を受ける環境下では、セメント材料に高炉スラグ微粉末および細骨材を混和することで強度や靱性が大きく向上することを明らかにした。大量使用が期待できるセメント材料として鉄鋼スラグの利用環境に新たな道を拓く成果であり、学術的にも実用的にも貢献の大きい研究成果である。		

3. 鉄鋼技術賞

賞の性格	鉄鋼環境技術の進歩を通して鉄鋼業に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	山本 光夫	所属	東京大学大学院農学生命科学研究科・准教授
助成研究期間	2年間 : 2016年11月～2018年10月		
研究テーマ	褐藻への鉄吸収量増加に寄与する有機物の特性評価		
研究成果	氏は、藻場再生技術に関して、実海域由来の腐植化した有機物が海藻への鉄吸収量や海藻成長に与える影響を明らかにした。鉄鋼スラグから供給される鉄分による藻場再生効果の機構解明に寄与する成果であり、沿岸生態系保全に配慮した鉄鋼スラグの海域利用促進に貢献の大きい研究成果である。		

以上